とうきょう　すくわくプログラム活動報告書

園名	草花保育園
活動日時	令和8年3月17日（火）
クラス名（年齢）	もも　組（4歳児）
年間テーマ	自然

1、活動テーマ

＜テーマ＞

見て触れて感じて考える

＜テーマの設定理由（子どもの姿）＞

・暖かくなり、春を感じて戸外で木や花や虫に目が向くようになった

2、活動スケジュール

・戸外で自由遊びをしながら探索を楽しむ
・子どもが発見したことを伝え、それについて興味を持つ

3、環境をデザインする（活動のために準備した素材や道具、環境設定）

・蜂の巣を見つけたので、見て触れてみることができるようにする
・「どんな蜂の巣なんだろう？」という疑問が出てきたので、色々な種類の蜂の巣を調べてみる

4、探究活動の実践

＜活動内容＞

・自由遊びの中での探索活動
・発見したことや感じたことを友達や保育者に伝える
・疑問に思ったこと、興味を持ったことを知ろうとする

＜活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり＞

子どもの言葉・姿	写真
・「蜂の巣だ」と園庭の片隅で見つけた蜂の巣（もう木から落ち、乾燥しきっている状態）のことを知らせに来た ・「中にいるのかなあ」「もういないみたいだね」「触っても平気なの？」 ・もう生きている蜂はいないことを確認してから保育者と一緒に蜂の巣を触ったり、解体してみる「大丈夫なの？」「中に蜂の子どもが入ってた」「針があるよ」「女王バチかな」「ふたがある中に蜂がいるよ」「これ、なんの蜂の巣だろう？」 ・後日、スズメバチやとっくちばち、ミツバチの巣を調べて見比べてみた。「（とっくりばちの巣を見て）これ、間違えてコップに入れたら蜂が出てきたりして」などと話していた	

5、振り返り（振り返りによって得た保育者の気づき）

・蜂の巣のことをよく知っていたり、蜂は危ないことも知っていて慎重に触れている様子に感心した。その中で出てきた子どもの気づきに合わせて、興味が広がったり、疑問に答えられるように関わっていった。日々保育の中で子どもが色々な発見や気づきをするので、それにいつでも応えられるような保育者の余裕が必要だと感じた。今回は自分なりに子どもに合わせて働きかけていったが、今後も継続してい行っていきたいと思った。